

Title	近世資本主義と殖民経済 (四)
Sub Title	
Author	阿部, 秀助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.4 (1923. 4) ,p.571(75)- 577(81)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230401-0075

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に就ては彼等は説明するところなし。多數者の少數者に對する權威も亦消滅する。各個人各地方團體は獨立自治を行ふのである。併し僅か二人の人より成る社會にしても、それが各人が其自主權の一部を放棄することなくして、如何にして成立ち得るか、これも亦 Bakunin の不問に附するところである。下略^二。(Kommunismus und Bakunismus. Die Bakunisten an der Arbeit von Friedrich Engels. Hrsg. von Franz Diederich Berlin 1920 S. 5-7)

近世資本主義と殖民經濟 (四)

阿部 秀助

六

吾人が既に前に述べしが如く當時の西班牙が其殖民地より齎らせし商品中、其價格に於て又た同國民の運命に與へし影響の著しかりし點に於て最も重要な意義を有せしものは金銀の如き貴金屬にして是等殖民地の諸鑛山に對する西班牙政府の態度は尙ほ中世の時代に見るが如く總て王室の所有にして、例者、千五百一年フェルヂナントとイサベラとは國王の許可なくして之れが殖民地内にある諸鑛山を採掘すること能はざること公布したのである、然るに千五百四年に至つて一般西班牙人に之れが採掘權を與ふると共に、採掘せられしものは總て王立鑛所 (Casa de fundición) に齎らす可きことを規定し、其後千五百二十六年十二月の勅令は更に採掘權の所有者を亞米利加印度人に及ぼし、更に千五百八十四年フエッ

プ二世は同年以後の發見にかゝる新鑛山は之れを發見せるものによりて永久に所有せられ得るとなし、尙ほ各人間に自由に之れを賣買し或は之れを讓渡し得るに至つたのである、但、西班牙領内に於ける總ての鑛山が王室に屬すとの初期の規定は殖民地の鑛山經營に従事せしものをして一定の金額を國王に納付したのである、即ちジョン二世の時代にありては之れが収入は採掘額の三分の二に達せしが、其の後、殖民地方面に於ける鑛山事業が急激なる進歩、發達を遂げし爲めに西班牙王室の収入となりし額は二分の一より三分の一となり更に五分の一に減ずるに至つたのである、殊に千五百二十年イスパニオラ諸島に於ける砂金の産出額が減少せしこと、土人の勞働者が欠乏せしことは茲に金産地の恐慌となり其結果、王室に納められし額は僅かに十分の一となり、殊に千五百五十二年の如きは更に減じて十二分の一となつたのである、而して當時に於ける西班牙の王家が歐洲の政治上に顯著なる活動なし得しことが主として海外より齎らされし貴金屬たりし場合に於て之れが價格に就きて考察する必要ありと信せらるゝのである、ベネチアの西班牙駐劄大使ガスパロ、コンタリニが千五百二十五年十一月本國政府に

報告せし處によれば西班牙王室が年々殖民地方面より齎らせし額は約十萬デユカットに達すとなし、又、同じくベネチア人たりしニコロ、チェポロは千五百三十三年西班牙の王室に納められし額を以て十五萬デユカットに達すとなし、更に西班牙の歴史家たりしゴマラは千五百五十二年に於て過去六十年間に互つて西班牙に新大陸方面より流入せし金銀の總額は六千萬デユカット以上なりとなし、更に十七世紀に於ける著述家例者ルキス、ヴルレ、デラ、シエルダの記す處によれば千六百十八年新大陸方面より西班牙に齎らされし金銀の總額は同國殖民地成立後約百年間に於て五億デユカット以上に達せしことを云つてゐるのである、又、ペドロ、フェルナンデツ、デ、ナブレテは千六百二十六年に於て此時期迄の金銀の總額を十五億三千六百萬デユカットとなし、更に此方面に最も有力なる研究者と稱せらるゝドクトル、サンチョー、デ、モンカダは千六百十九年に著せし「レストラチオン、ポリチカ」に於て十六世紀を通じて新大陸方面より母國に流入せし金銀の總額を二十億ペンスに達すとなししてゐるのである。

斯くの如き巨額の貴金屬が西班牙に對して果して如何なる影響を與へしかを

考察する爲めには少しく溯つて西班牙其者の經濟的狀態を知るの必要があるのである。

十六及十七兩世紀に於ける西班牙の著述家が屢々吾人に示すが如く羅馬時代に於ける同國は尙ほ當時の埃及の如く羅馬にとりて穀倉と稱せられしものなりしが其後七百年に亘りし宗教的戰爭は西班牙の大部分を荒廢せしむるに至り、只だ此間に於て農業的經營を示せしものは東洋方面より移住し來りしムア人で、彼等は羅馬時代の遺物たりし運河を改修し或はセヅィリヤ方面に廣大なる橄欖園を經營し、又アラゴン及カスチルの高原地方を開墾し或はグラナラ、マウルシア、ワレンシアの地方に桑樹を栽培し以て此地方に於ける養蠶業を發達せしめたのである、斯くの如くムアが主として南部西班牙に於て農業上に活動せしに對して當時、北部方面に住せし基督教徒の主として營みし處は牧畜業で彼等は漸次南方に於けるムアの勢力範圍に侵入せし場合に於ても彼等は依然として牧畜業に従事したのである、而して之が主なる理由としては彼等がムアの中より奪し土地が再び敵人の手に委せらる可しとの憂は彼等をして永久的に資本と勞力とを土地に投

せしめざりしと共に彼等は何時にても自己と共に其居所を轉じ得可き家畜を飼養するに至つたのである、而して西班牙政府が之れに干渉せざりしことは要するに個人の財産に危害を加へざることは國家の正當なる任務たりと云ふ點に存したのである、然るに其後、ムアが西班牙より驅逐せらるゝや當時フルデナントとイサベラとは之れが政策上一大變更を齎らす可き絶好の時機たりしに不拘、徒らに歴史の惰力に支配せられて農業よりも牧畜業を以て國民の主業と見做したのである、例者イサベラは當時に於ける西班牙産の羊が五萬頭より一萬頭に減せし場合に之れが挽回策として牧畜業者に或種の特權を附與せしに對して農業に就きては千五百二年來穀物課税を實施せり、斯くの如く西班牙の政策が稍々もすれば農業を排せんとせしに對して殖民地在住の西班牙人が放逸なる生活を送りしことは本國方面よりの輸入を大ならしむるに至り、現にエレッツよりマラガに至る地方には到る處葡萄栽培せられ、然かも殖民地方面の需要を満足せしむること能はざりし状態で、斯くの如く需要額が供給額以上に達せしことは著しく同國の物價を騰貴せしむるに至り、即ち千五百十九年より千五百六十五年の間に於て植物性

の油の如き豚肉と同じく約三倍の騰貴を見るに至つたのである、而して斯くの如きは單に以上兩種に止まらずして自餘の食料品の如きも大同小異の状態を呈したのである。只だ茲に除外例として見做さるゝものは西班牙に於ける橄欖栽培事業の發達せしこと、之が發達は其供給額をして本國及殖民地の需要額以上に、出でせしめし結果、茲に當時の西班牙に於て一種の新工業即ち石鹼製造業の發達を見るに至つたのである、次ぎに同國の商工業に就きて見るに古代及中世の大部分を通じて西班牙は當時の世界的商業上に於ける重要な地點にして例者、同國のバルセロナは十四及十五兩世紀のゼノア、ヴェニスに拮抗し、又、ブレンシアは十五世紀の中期に於てマラガは之が後半期に於て何れも有力なる通商的地點となつたのである、尙ほヴェニチア其他の以太利都市が漸次英國、フランス、ハンザと直接交通を開始するに及んで西班牙の諸港は之れが世間的地位を有するものとして經濟上重要視されたのである。次ぎに當時の西班牙より輸出せられしものは十中八九は食料品又は原料品にして工業品としては吾人が前に挙げし石鹼製造業ありしのみである、然かも此新工業も亦た西班牙に於ける基督教徒によりて

なされしものでなくて寧ろムアによりてなされしものである、斯くの如く西班牙に於て工業の發達せざりし理由は資力ある貴族が工業に従事することを國法が禁せしと共に一般の人民は工業上の修養と資本とを有しなかつたのである、尙ほ千四百九十二年以前に於ける西班牙の金融界は殆んど猶太人の獨占に歸し彼等は單に資本家として其勢力を有せしのみならず同時に同國に於ける小賣方面をも併せ支配したのである、斯くの如く當時の西班牙が工業上經濟上殆んど無能力者の状態に存せしことは外國方面の大商人をして此國の經濟上に密接なる關係を持続せしむるに至り即ち吾人が前に挙げしウェルザー家の如きは之れが最も顯著なるものである。(未完)